別紙　質疑内容　※＜＞内は、選定委員発言

|  |  |
| --- | --- |
| 質問 | 回答 |
| 株式会社 理究キッズ | 株式会社 明日葉 | 株式会社 明日香 | シダックス大新東ヒューマンサービス株式会社 |
| 管理運営の基本方針について | 地域との関係性をよく理解することから始める。今、小学校の敷地内で運営を行うということは現在、鎌倉市から指定管理を任されている他の施設とは全く違うのでどのように運営をしていくかが重要であると考えている。＜今回の指定管理期間は５年間と長期にわたるが、運営を行っていき、５年後のイメージはどのようなものか＞まず、最初の１年間は周囲からの助言をしっかりと学ぶ期間であると考えている。そして５年後には地域の人たちと共にプログラムを盛り上げていき、玉縄は良い地域であるとの実感がもてるような活動と行っていきたい。 | 横浜市での施設運営の実績と経験を踏まえて、積極的に地域に溶け込み、学校や地域との連携を進めていきたい。直営施設から指定管理者へ移行するので、子どもたちに動揺がないように運営をしていく最終的には子どもたち自身が相手を敬いながら成長していくことを目指している。 | 学校内の施設であるので学校との連携が重要であると認識している。施設が中心となるのではなく、地域の仲間入りをさせてもらうイメージを持っている。＜スタッフの採用はどのように行っていくのか。＞現在、勤務している職員を採用していくほか、外の指定管理施設からスタッフをアドバイザーとして派遣することも考えている。また、障害児等の対応もあると思うので、スタッフへ研修等への参加を進めていく。本部の職員も現場に入り相談体制の構築を進めていく。 | 今の職員の弊社への転籍も含めて対応していく。地域とのつながりが大事であると考えているので、該当地域からの採用も行っていく。万が一、欠員が生じても、専門性を有しているスタッフを多く配置していることから、対応が可能であると考えている。また、安心・安全という観点から、常勤職員を配置し、どの時間帯でも毎日いる人間を配置する。 |
| かまくらっ子について | 既に放課後かまくらっ子は10月から運営実績があり、そこで得た知見を活かして管理運営を行っていきたい。また、今回は新築の専用棟での運営ということになるが、他市でも同様なケースでの管理運営実績があるため十分に対応ができると考えている。地域の利を活かした活動として周辺の施設等を効率よく活用することも視野にいれている。 | 地域つくりであり、福祉であると考えている。誰かのために何かをやりたいというようなボランティアの心を幼少期から育んでいきたい。 | 現在、実施されているイベントについてはそのまま継続して行っていく。今までの運営実績から地域との連携がいかに大事であるかを理解しており、積極的に地域との交流をはかり、地域行事に参加したり、施設行事に地域の方々のお手伝いをいただいたりなどで、地域と共に児童の成長の手伝いをしていきたいと考えている。 | 施設に地域のかたがたがくるのではなく、我々が地域に積極的に出ていくことが重要である。プラグラム等、施設で行っていることを地域のイベントで行なっていきたい。長い指定管理期間となるので、卒所した子どもたちがボランティアで参加できるようにしていくことが目標である。地域の方々と連携し子どもたちにとって魅力ある場所を提供していく。また、様々なツールを活用し、子どもたちの成長の様子を発信していきたいと考えている。 |
| 地域との連携、体験活動について | 地域との連携に関して、かまくらっ子とは線をひかずに一体であると考えている。また、地域のことをよく熟知しているスタッフを配置し、積極的に地域の行事に参加していきたい。 | 現在、運営している他施設では色々なイベントを行っており、忙しい保護者のかわりに地域の防災訓練にも参加している。子どもたちが地域の担い手になっていくためにも、早くから地域のイベントに参加することは重要であると考えている。子どもたちも地域の人たちの顔や名前を覚えることができて、地域への愛着をもつきっかけにもなっている。 | 横浜市の評議会では、地域の人が子どもを育てていこうという気持ちを感じ、その大切さを学んだ。地域と関わりをもつことで、子どもが地域に出たときに守ってくれることもある。中高生となっても地域の子どもを見守れるよう、地域として連携をとっていきたい。体験活動に関して、高学年の参加については、何か目的があると増加する傾向にある。 | 学校との連携については、お互いに情報共有するということが重要であると考えている。情報共有を密に行うことによって、校庭等の使える日の把握を行い、イベントを行いやすくなると思う。地元の方から理解が得られなければその周りからも理解が得にくいと考えている。一貫したサービスを行うことで安心して子育てを行う環境づくりこそが地域との連携であり、活性化に繋がると考えている。 |
| 乳幼児の受入れについて | もともと施設の構造が乳幼児のために作られていないため、危険であると認識している。乳幼児の利用がある午前と小学生の利用が主である午後で管理体制を変えることも視野にいれている。 | 横浜市、川崎市、都内で保育園事業を展開しており、実績を有している。また、乳幼児受入れのために、有資格者等の人材の確保を行っている。 | 受入れ準備に際し、乳幼児にとって危険ではないかの確認を行い、それらが置かれている棚等には近づかないようにネットを張るなど対処をしいく。寄り添える体制を整え、乳幼児親子が来所しやすい雰囲気作りを構築する。 | 小学生の居場所としてだけではなく乳幼児親子にとっては親子の居場所であると認識している。現在子ども会館で実施中のイベントについては、可能な限り継続していくこと、また、弊社独自のイベントも行っていきたい。 |
| 財務関係について | ＜貴社は親会社から分割をして設立されているが、これは何故か＞学童部門をさらに拡充させるために親会社から新設置分割の形をとり、100％出資子会社として分社化をおこなった。 | ＜なぜ、直近で1000万円の借入があったのか＞７月に分社化があり、分社後の会社の債務引き受け先が明日葉本社であった。安定した運営を行っていくために借入を行った。＜現金資産が少ないがどのような理由か。＞基本的に現金でのやりとりをしていないためだが、急病人等でタクシーを使う等するためにある程度保有している。 | ＜子育て関連の売上はどれくらいか。＞東京と神奈川の施設すべての売り上げ分である。 | ＜過去に起きた食中毒の件はどうなったか。＞解決済みである。弊社の責任ではないとのことになった。 |